大東市森林整備計画

計 画 期 間

自 令和 7年 4月 1日

至 令和17年 3月31日

大 東 市

目 次

I	伐採、造林、保育その他森林の整備に関する基本的な事項	4
1	森林整備の現状と課題	4
2	森林整備の基本方針	4
3	森林施業の合理化に関する基本方針	5
II	森林の整備に関する事項	6
第1	森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く）	6
1	樹種別の立木の標準伐期齢	6
2	立木の伐採（主伐）の標準的な方法	6
3	その他必要な事項	7
第2	造林に関する事項	7
1	人工造林に関する事項	7
2	天然更新に関する事項	8
3	植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項	9
4	森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林 をすべき旨の命令の基準	10
5	その他必要な事項	10
第3	間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法 その他間伐及び保育の基準	10
1	間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法	10
2	保育の種類別の標準的な方法	11
3	その他必要な事項	11
第4	公益的機能別施業森林等の整備に関する事項	12
1	公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における施業の方法	12
2	木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき 森林の区域及び当該区域内における施業の方法	12
3	その他必要な事項	14
第5	委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項	14
1	森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大に関する方針	14
2	森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大を促進 するための方策	14
3	森林の経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項	14
4	森林経営管理制度の活用に関する事項	14
5	その他必要な事項	14

第6	森林施業の共同化の促進に関する事項	14
1	森林施業の共同化の促進に関する方針	14
2	施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策	14
3	共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項	15
4	その他必要な事項	15
第7	作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項	15
1	効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び 作業システムに関する事項	15
2	路網整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域に関する事項	15
3	作業路網の整備に関する事項	15
4	その他必要な事項	15
第8	その他必要な事項	15
1	林業に従事する者の養成及び確保に関する事項	15
2	森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項	15
3	林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項	15
Ⅲ	森林の保護に関する事項	16
第1	鳥獣害の防止に関する事項	16
1	鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法	16
2	その他必要な事項	16
第2	森林病虫害の駆除及び予防、火災の予防その他の森林の保護に関する事項	16
1	森林病虫害等の駆除及び予防の方法	16
2	鳥獣害対策の方法（第1に掲げる事項を除く）	16
3	林野火災の予防の方法	16
4	放置竹林の対策の方法	17
5	森林病虫害の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項	17
6	その他必要な事項	17
Ⅳ	森林の保健機能の増進に関する事項	18
1	保健機能森林の区域	18
2	保健機能森林の区域内の森林における造林、保育、伐採 その他の施業の方法に関する事項	18
3	保健機能森林の区域内における森林保健施設の整備に関する事項	18
4	その他必要な事項	18
Ⅴ	その他森林の整備のために必要な事項	19

1	森林経営計画の作成に関する事項	19
2	生活環境の整備に関する事項	19
3	森林整備を通じた地域振興に関する事項	19
4	森林の総合利用の推進に関する事項	19
5	住民参加による森林の整備に関する事項	19
6	森林経営管理制度に基づく事業に関する事項	20
7	その他必要な事項	20

I 伐採、造林、保育その他森林の整備に関する基本的な事項

1 森林整備の現状と課題

大東市は大阪府の東部にあって河内平野のほぼ中央に位置し、東部には生駒山系がある。この山系の稜線で奈良県と接し、西へ海拔高を山地部から急傾斜地を経て平野部へと漸減しながら大阪平野に至り、山地部、急傾斜地、平野部のそれぞれが比較的明瞭である。また、平野部においては一級河川である寝屋川と恩智川とがJR住道駅付近で合流し、大阪湾へと流入している。

市の総面積は1827haであり、うち森林の面積は281haで市域の15.4%を占めている。森林の現状は、クヌギやコナラ等からなる天然林とスギなどの人工林である。

本市は、大阪市の後背部に位置し全域が都市計画区域になっており、市街化区域が1187haを占めている。このため、住宅開発や土砂採取等の都市的な圧力が常に森林に及んでいることなどもあり、本地域の森林は林業的な位置付けが難しくむしろ、市民の緑地としての役割が高くなっている。

森林の大半が金剛生駒紀泉国定公園等に指定され、広く市民の自然レクリエーションの場として活用されているほか、山麓部にまで市街地が及んでいることもあり、山地災害の防止や生活環境の保全等に対して重要な役割を果たしている。

そこで、森林所有者のみならず、市民の共有財産としての森林を充実させるべく、森林の公益的機能が高度に発揮されるよう、花木の植栽などによる景観林への誘導や荒廃森林の整備の推進を行う。

2 森林整備の基本方針

- ・府内や近隣府県でも複数の木質バイオマス発電施設の整備が進んでいることから、燃料としての需要拡大が見込まれる木質チップ材に対して、未利用間伐材の活用を促進する。
- ・「おおさか河内材」や「おおさか和泉材（いずもく）」等の府内産材の利用を促進する。
- ・工務店や設計士等と連携した内装材としての活用や、譲与税を活用した木材利用の促進を図る。

(1) 地域の目指すべき森林資源の姿

森林機能ごとの望ましい姿は下記のとおりである。

○山地災害防止機能／土壌保全機能

下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し、土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設が整備されている森林。

○快適環境形成機能

樹高が高く枝葉が多く茂っているなど、遮蔽能力が高く防音、防風機能の高い

森林や汚染物質の吸着能力が高く、諸被害に対する抵抗力が高い森林。

○保健・レクリエーション機能

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民等に憩いと学びの場を提供してくれる森林であって、必要に応じて保健活動に適した施設が整備されている森林。

○文化機能

史跡・名勝等と一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化・教育的活動に適した施設が整備されている森林。

(2) 森林整備の基本的な考え方及び森林施業の推進方策

森林整備に当たっては大阪府が作成した府内の将来の森林のあるべき姿とそれを実現するための技術的手法を示す「大阪府森林整備指針（以下指針という）」に定める「メリハリをつけた林業経営」「防災に配慮した森づくり」「広葉樹などの資源の育成と活用」「多様な森づくり」の4つの目標に向けて指針の内容をふまえて森林整備を実施していくこととする。

森林の有する多面的機能に応じて、上記課題に配慮しながらそれぞれの機能に応じた整備を行う。

また、竹林の侵入等により生物相が貧弱となった里山林を生物相豊かな里山林として再生すること等により生物多様性の保全に資する。

3 森林施業の合理化に関する基本方針

該当なし。

II 森林の整備に関する事項

第1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く）

1 樹種別の立木の標準伐期齢

地 区	樹 種					
	スギ	ヒノキ	マツ	その他の 針葉樹	クヌギ	その他の 広葉樹
大東市域	40年	45年	35年	45年	10年	15年

なお、標準伐期齢は、地域を通じた立木の伐採（主伐）の時期に関する指標として定めたものであって、標準伐期齢に達した時点での森林の伐採を促すものや義務付けるものではない。

主要樹種ごとに上表に示す林齢を基準として平均成長量が最大となる林齢に森林の有する公益的機能、森林の構成等を勘案して定めるものとする。

また、特定苗木等が調達可能な場合は、その特性に対応した標準伐期齢の設定を検討する。

2 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

地域森林計画に定める立木の伐採（主伐）の標準的な方針に関する指針に基づき、森林の有する多面的機能の維持増進を図るため、気候、地形、土壌等の自然条件、樹種や森林の構成等の森林資源の賦存状況、地域の林業技術体系等を勘案して、伐採方法、主伐の時期、伐区の設定方法その他必要な事項を次のように定める。

皆伐は、1箇所当たりの伐採面積の規模や伐採箇所の分散に配慮し、適確な更新を図る。また、花粉の発生源となるスギ等の人工林の伐採・植替え等を促進する。

択伐については、主伐のうち、伐採区域の森林を構成する立木の一部を伐採する方法で、単木・帯状又は樹群を単位として伐採区域全体ではおおむね均等な割合で行う。

また、択伐に当たっては、森林の有する多面的機能の維持増進が図られる適正な林分構造となるよう材積にかかる伐採率が30%以下（伐採後の造林が植栽による場合にあっては40%以下）とする。

なお、立木の伐採に際しては、以下のア～オに留意する。

- ア 森林の生物多様性の保全の観点から、野生生物の営巣等に重要な空洞木について、保残等に努める。
- イ 森林の多面的機能の発揮の観点から、伐採跡地が連続することのないよう、少なくとも周辺森林の成木の樹高程度の幅を確保する。
- ウ 伐採後の的確な更新を確保するため、あらかじめ適切な更新の方法を定め、その方法を勘案して伐採を行うものとする。特に、伐採後の更新を天然更新による場合には、天然稚樹の生育状況、母樹の保存、種子の結実等に配慮する。
- エ 林地の保全、雪崩、落石等の防止、寒風害等の各種被害の防止、風致の維持及び溪

流周辺や尾根筋等に保護樹帯を設置する。

オ 伐採に当たっては、上記ア～エに定めるものを除き、「主伐時における伐採・搬出指針の制定について」(令和3年3月16日付け2林整整第1157号林野庁長官通知)のうち、立木の伐採方法に関する事項を踏まえた方法により行う。また、集材に当たっては、林地の保全等を図るため、「主伐時における伐採・搬出指針の制定について」(令和3年3月16日付け2林整整第1157号林野庁長官通知)を踏まえ、現地に適した方法により行う。

3 その他必要な事項

該当なし。

第2 造林に関する事項

1 人工造林に関する事項

人工造林については、植栽によらなければ的確な更新が困難な森林や、公益的機能の発揮の必要性から、植栽を行うことが適当である森林において行う。

(1) 人工造林の対象樹種

人工造林の対象樹種
スギ、ヒノキ、マツ類、クヌギ、コナラ、ケヤキ等

必要に応じて郷土種の選定等森林の生物多様性の保全にも留意する。

さらに、定めた樹種以外の樹種を植栽しようとする場合は、林業普及指導員または市の林務担当部局と相談の上、適切な樹種を選定する。

また、花粉発生源対策を推進するため、花粉の少ない苗木(無花粉苗木、少花粉苗木、低花粉苗木及び特定苗木をいう。)の植栽、広葉樹の導入等に努めることとする。

(2) 人工造林の標準的な方法

ア 人工造林の樹種別及び仕立ての方法別の植栽本数

樹種	仕立ての方法	植栽本数(本/ha)	備考
スギ	密仕立て	4,000	
	中仕立て	3,000	
	疎仕立て	2,000	
ヒノキ	密仕立て	4,000	
	中仕立て	3,000	
	疎仕立て	2,000	

注) 植栽本数を減じる場合は、スギ:1,000本/ha、ヒノキ:1,500本/haを下限とする。

標準的な植栽本数の範囲を超えて植栽しようとする場合は、林業普及指導員または市の林務担当部局と相談の上、適切な植栽本数を決定する。

人工造林の植栽本数によるものとするが、多様な森林の整備を図る観点から、地

域の施業体制や生産目標を想定した幅広い植栽本数を定めるとともにコンテナ苗の活用及び伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽の導入に努めることとする。

イ その他人工造林の方法

区 分	標準的な方法
地拵えの方法	植栽を容易にするため、伐採跡の枝条等を整理する。枝条等の量が多い場合には必要に応じて棚積みなどの処理を行うものとする。
植付けの方法	植え穴は十分大きく掘るとともに、根が広がるように植え付け、踏み付けを行い活着率の向上を図る。また、苗木は林地に均一に植え付けるものとする。
植栽の時期	植栽は春先に行うものとする。

(3) 伐採跡地の人工造林をすべき期間

皆伐による伐採に係るものについては、当該伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して2年以内に植栽する。

また、択伐による伐採に係るものについては、伐採による森林の公益的機能への影響を考慮し、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算し5年以内に植栽する。

2 天然更新に関する事項

天然更新については、前生稚樹の育成状況、母樹の存在など森林の状況、気候、地形、土壌等の自然条件、林業技術体系等からみて、主として天然力を活用することにより適確な更新が図られる森林において行うこととする。

(1) 天然更新の対象樹種

天然更新の対象樹種	スギ、ヒノキ、マツ類、クヌギ、コナラ等
ぼう芽による更新が可能な樹種	クヌギ、コナラ等

(注) ただし、スギ、ヒノキは択伐に限る。

(2) 天然更新の標準的な方法

森林生産力の維持増進を図るため、ぼう芽により更新を行う林分にあつては、原則として標準伐期齢未満の伐採は避けること。また更新は、周辺の草丈以上の更新樹種の本数が概ね下表に示す本数以上で完了しているものとする。

なお、林床等の状況から天然稚樹の発生・育成が不十分な箇所については、必要に応じて地表処理、刈出し、植え込み等の更新補助作業を行うこととする。

ア 天然更新の対象樹種の期待成立本数

樹種	期待成立本数	立木度	更新完了の基準となる本数
スギ、ヒノキ、マツ類、クヌギ、コナラ等	10,000 本/ha	3	3,000 本/ha

イ 天然更新補助作業の標準的な方法

区分	標準的な方法
地表処理	下層植生や粗腐植の堆積等により天然下種更新が阻害されている箇所について、地表のかき起こしや枝条整理等を行う。
刈出し	天然稚樹が下層植生により生育が阻害されている箇所について、生育を妨げる雑草木を除去する。
植込み	植込みは天然下種更新の不十分な箇所において行う。なお、植込み本数は、天然稚樹等の有無及びその配置状況等を勘案して決定する。
芽かき	芽かきは目的樹種のぼう芽の発生状況等を勘案して行うものとし、伐採後2～3年以内に優勢なぼう芽を3本程度残すよう芽かきを行う。

ウ その他天然更新の方法

該当なし。

(3) 伐採跡地の天然更新をすべき期間

当該伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して伐採後5年以内に更新状況の確認を行うとともに、更新が完了していないと判断される場合は植栽等により確実に更新を図る。

3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項

(1) 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の基準

現況が針葉樹人工林であり、母樹となり得る高木性の広葉樹林が更新対象地の斜面上方や周囲100m以内に存在せず、林床にも更新樹種が存在しない森林を、「植栽によらなければ適確な更新が困難な森林」の基準とする。

(2) 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の所在

該当なし。

4 森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林をすべき旨の命令の基準

(1) 造林の対象樹種

ア 人工造林の場合

1の(1)による。

イ 天然更新の場合

2の(1)による。

(2) 生育しうる最大の立木の本数

2の(2)による。

5 その他必要な事項

該当なし。

第3 間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準

1 間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法

樹種	施業体系	植栽本数 (本/ha)	間伐を実施すべき標準的な林齢(年)			
			初回	2回目	3回目	4回目
スギ	中仕立	3,000	16	21	31	(40)
	密仕立	4,000	16	20	24	
ヒノキ	中仕立	3,000	18	23	35	(45)
	密仕立	4,000	18	23	29	35

注) () は長伐期大径材生産を目標とした場合。

除伐後、樹冠が過密状態になったとき第1回目を行い、伐期まで2~4回行うものとする。間伐木の選定は、林分構造の適正化を図るよう形質不良木等に偏ることなく行うものとし、間伐率は本数割合で2~3割程度(初回は3割程度)とする。

2 保育の種類別の標準的な方法

保育の種類	樹種	実施すべき標準的な林齢														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
下刈り	スギ	○	○	○	○	○	△	△								
	ヒノキ	○	○	○	○	○	○	△	△							
つる切り	スギ						○	○	○							
	ヒノキ							○	○	○						
除伐	スギ									←	○	→				
	ヒノキ											←	○	→		

(注) △は必要に応じて行う。

ア 下刈り

上長成長を開始して雑草木類との競合が始まる時期から雑草木から十分抜け切る時期まで1～2回行い、実行時期は6月上旬～9月上旬とする。

イ つる切り及び除伐

下刈り後3～5年間は、つる切り及び除伐を行う。除伐は、目的樹種の生育が阻害されている箇所及び阻害される恐れのある箇所を対象として、発育不良木、被害木等について実施する。なお、この場合急激な環境変化を生じないように配慮するとともに、目的外樹種であっても、有用なものは残し育成させる。

ウ 枝打ち

林分の樹冠閉鎖後、間伐の実行前に立木の生育に支障のない程度に行い、実施時期は11月～3月とする。

エ その他必要な事項

病虫害の被害が発生した場合には、早期駆除に努めること。

3 その他必要な事項

該当なし。

第4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項

1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における施業の方法

(1) 水源の涵養機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

該当なし

(2) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林その他水源涵養機能維持増進森林以外の森林

ア 区域の設定

別表1のとおり

イ 施業の方法

アの森林の区域のうち、公益的機能の維持増進を図るため、以下の伐期齢の下限に従った森林施業その他の森林施業を推進すべきものを当該推進すべき森林施業の方法ごとに別表2に定める。

長伐期施業を推進すべき森林の伐期齢の下限

区域	樹種					
	スギ	ヒノキ	マツ	その他 針葉樹	クヌギ	その他広葉樹 (ただしコナラを除く)
全域	80年	90年	70年	90年	20年	30年

2 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域及び当該区域内における施業の方法

(1) 区域の設定

木材生産機能維持増進森林は、林木の生育状況から安定した木材生産が見込まれるとともに、林道の開設状況等から効率的な森林施業が可能な森林を別表1のとおり定める。

また、木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域のうち、林地生産力が高く、傾斜が比較的緩やかで、林道等や集落からの距離が近い森林等を「特に効率的な施業が可能な森林」として、必要に応じて定める。その際、人工林を中心とした林分であるなど周囲の森林の状況を踏まえるとともに、災害が発生する恐れのある森林を対象としないよう十分に留意し定める。

【別表1】 公益的機能別施業森林の区域の設定

区分	森林の区域	面積 (ha)
水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	該当なし	
土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	1～4	159
快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	全域	282
保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	全域	282
その他の公益的機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	該当なし	
木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	該当なし	
木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のうち、特に効率的な森林施業が可能な森林	該当なし	

【別表2】 公益的機能別施業森林の施業の方法

施業の方法	森林の区域	面積 (ha)
伐期の延長を推進すべき森林	該当なし	
長伐期施業を推進すべき森林	全域	282
複層林施業を推進すべき森林	該当なし	
複層林施業を推進すべき森林 (択伐によるものを除く)	該当なし	
択伐による複層林施業を推進すべき森林	該当なし	
特定広葉樹の育成を行う森林施業を推進すべき森林	該当なし	

(2) 施業の方法

木材等生産機能維持増進森林では、森林の公益的機能の発揮に留意しつつ一定の森林蓄積の確保を図り伐採面積の縮小に配慮するとともに、植栽による確実な更新、保育及び間伐等の実施、路網整備、森林施業の集約化・機械化等を通じた効率的な森林整備を推進することとし、多様な木材需要に応じた持続的・安定的な木材等の生産が可能とな

る資源構成となることを旨として定めることとする。また、特に効率的な施業が可能な森林における人工林について、原則として、皆伐後には、植栽による更新を行うこととする。

3 その他必要な事項

該当なし。

第5 委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項

1 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大に関する方針

該当なし。

2 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大を促進するための方策

該当なし。

3 森林の経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項

該当なし。

4 森林経営管理制度の活用に関する事項

森林所有者が自ら森林組合等に施業の委託を行うなどにより森林の経営管理を実行することができない場合には、森林経営管理制度の活用を図り、森林所有者から経営管理権を取得した上で、林業経営に適した森林については意欲と能力のある林業経営者に経営管理実施権を設定するとともに、経営管理実施権の設定が困難な森林及び当該権利を設定するまでの間の森林については、森林環境譲与税を活用しつつ、市町村森林経営管理事業を実施することにより、適切な森林の経営管理を推進する。

5 その他必要な事項

該当なし。

第6 森林施業の共同化の促進に関する事項

1 森林施業の共同化の促進に関する方針

該当なし。

2 施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策

該当なし。

3 共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項
該当なし。

4 その他必要な事項
該当なし。

第7 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項

1 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムに関する事項
該当なし。

2 路網整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域に関する事項
該当なし。

3 作業路網の整備に関する事項
該当なし。

4 その他必要な事項
該当なし。

第8 その他必要な事項

1 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項
林業への新規参入・起業など林業従事者の裾野の拡大に取り組む。

2 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項
該当なし。

3 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項
令和5年に改正された合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（平成28年法律第48号）に基づき、木材関連事業者による合法性の確認等の実施及び合法性確認木材などの取扱数量の増加等の取り組みを着実に進める。

Ⅲ 森林の保護に関する事項

第1 鳥獣害の防止に関する事項

- 1 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法
該当なし。
- 2 その他必要な事項
該当なし。

第2 森林病虫害の駆除及び予防、火災の予防その他の森林の保護に関する事項

1 森林病虫害等の駆除及び予防の方法

(1) 森林病虫害等の駆除及び予防の方針及び方法

森林病虫害等による被害の未然防止と被害の軽減を図るため、特にカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害について、森林の巡視による被害の早期発見及び早期駆除等に努め、特に歩道沿いや人家裏等、人的被害の恐れのある箇所を優先して対策を実施する。

また、森林病虫害のまん延を防ぐため、緊急に伐倒駆除する必要がある場合等については、森林所有者等と協力して伐採の促進に関する指導等を行い、被害を受けにくい健全な森づくりを目指し、高齢木や大径木の伐採を進めることで森林の更新を図る。

(2) その他

府や市、森林組合等で組織する「生駒山系森づくりサポート協議会」等において、森林病虫害等による被害の未然防止と被害の軽減を図るための対策等を協議するとともに、森林の巡視や広報等を行い、森林病虫害等による被害の未然防止と被害の軽減に努める。

2 鳥獣害対策の方法（第1に掲げる事項を除く。）

鳥獣による森林被害を軽減するため、防護柵の設置や個体数の調整、放置竹林の手入れによる鳥獣の潜伏エリアの縮減、被害対策について森林所有者への普及啓発等に努めるなど鳥獣による森林被害の軽減を図る。

3 林野火災の予防の方法

広報や看板等を活用して森林所有者やハイカー等に対する火の取り扱いに関する注意喚起を図るとともに、地元消防署や消防団との連携強化と初期消火機材の配置等により林野火災の予防と初期消火に努める。

4 放置竹林の対策の方法

近年、里山林や人工造林地などに竹が侵入し、従来の植生を破壊するなど、森林の持つ多面的機能や生物多様性の低下、山腹崩壊等を引き起こす放置竹林の拡大が問題となっている。放置竹林の拡大を防ぐため、アドプトフォレスト制度等を活用し、企業、NPO等による竹林整備を促進するとともに、竹資源を活用した新たな活用方策について検討するなど、利用促進に努める。

5 森林病虫害の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項

該当なし。

6 その他必要な事項

該当なし。

IV 森林の保健機能の増進に関する事項

1 保健機能森林の区域

森林の所在		森林面積 (ha)	備 考
位置	林班		
図面の	1	4 7	それぞれの各一部
とおり	3	4 4	

2 保健機能森林の区域内の森林における造林、保育、伐採その他の施業の方法に関する事項

施業の区分	施業の方法
造林・植栽	造林・植栽に当たっては、多様な樹種や郷土樹種を主とした材木が適当な間隔で配置されるように配慮する。
保育・管理	保育・管理に当たっては、多様な動植物が生息できる良好な環境を保全するため、適正な維持管理に努める。また、必要に応じて森林保健施設の整備を図る。
伐採その他施業の方法	人工林施業を行う場合には、1 伐区当たりの面積を小規模に抑えること、また、伐区を分散すること等により、当該機能が低下しないように配慮する。 また、長伐期の人工林施業の導入を図り、伐採種は択伐あるいは小面積の皆伐とする。

3 保健機能森林の区域内における森林保健施設の整備に関する事項

自然環境の保全、国土保全及び文化財の保護等配慮しつつ、利用者の意向や地域の実情等を踏まえてハイキング道や案内サイン、ベンチ等の整備を行うとともに、施設の適切な管理に努める。

4 その他必要な事項

該当なし。

V その他森林の整備のために必要な事項

1 森林経営計画の作成に関する事項

該当なし。

2 生活環境の整備に関する事項

該当なし。

3 森林整備を通じた地域振興に関する事項

大東市域の3分の1を占める山間地域は、緑豊かな地域で、野崎観音、飯盛山など歴史的、文化的資源も数多く点在している地域である。特に、飯盛山の山頂には、中世の山城跡「飯盛城跡」があり、貴重な歴史遺産が残存している。しかし、個々の資源が有機的に連携していないがために、市民にとって身近なものに成り得ていないのが現状である。

よって、この地域を市内外の人々が気軽に散策したり、スポーツを楽しんだり、自然と楽しめる「現代の里山ー大東の杜」として全体をそろえ、地域の歴史や文化に接したり、健康・スポーツ活動が楽しめる環境に整備をはかる。

基本的な考え方としては、野外活動センターを中心に野崎、龍間、飯盛山方面へ向かう3つのルートを生かす「面」としての広がりではなく「ネットワーク」として整備する。

それぞれのルートは、その地域の特性を考慮して「自然」「歴史・文化」「健康・スポーツ」をテーマとし、それぞれの結節点にアメニティや情報発信のための拠点整備を検討する。

4 森林の総合利用の推進に関する事項

森林の総合利用施設の整備計画

施設の種類	現状 (参考)		(将来)		対図番号
	位置	規模	位置	規模	
大東市立野外活動センター	大東市大字龍間 1846 番地	11655.09 m ²	現状施設の維持・更新を図る		

5 住民参加による森林の整備に関する事項

(1) 地域住民参加による取り組みに関する事項

市民の共有財産としての森林を充実させるためには、林業生産活動を活発にさせる必要があるものの、森林が都市部に位置していること等もあり、産業としての林業は非常に成り立ちにくい環境にある。

一方、市民は森林が有している有形無形の恩恵にあずかることで、快適な生活環境を享受している面も多く、森林所有者のみならず市民の協力を得ながら森林の整備を

図る。

(2) 上下流連係による取り組みに関する事項

市民に森林・林業に関する PR を行うとともに、森林ボランティア等の人材育成を図り、地域住民や森林ボランティア団体等と連携した森林保全の方策を検討する。

(3) その他

該当なし。

6 森林経営管理制度に基づく事業に関する事項

該当なし。

7 その他必要な事項

(1) 森林施業の技術及び知識の普及・指導に関する事項

森林施業の円滑な実行確保を図るため、府等の指導機関との連携をより密にし、普及啓発、経営意識の向上に努めることとする。

(2) 自然とのふれあいの場の整備

豊かな景観を形成するとともに生きものの生息や自然と人とのふれあいの場として、一層みどりの保全や創出に積極的に努めることが必要となってきた。

市立野外活動センターの既存施設との連携を保ち、防災・景観に配慮した森林の整備を行い、市民のスポーツ・レクリエーションの場としての市民の森づくりを進め、市民の憩いの場としての機能の向上を図る。

(3) 土地の形質の変更に当たって留意すべき事項

森林の土地の形質の変更に当たっては、森林の適正な保全と利用の調和に留意するものとする。

盛土等に伴う災害を防止するため、宅地造成及び特定盛土規制法（昭和 36 年法律第 191 号）に基づき、規制区域の森林の土地においては、谷部等の集水生の高い場所における盛土等は極力避けるとともに、盛土等の工事を伴う際の技術的基準を遵守するよう促す。

付属資料：市町村森林整備計画概要図

参考資料

○計画期間内において間伐を実施する必要があると認められる森林の所在

樹 種	齡 級	森林の所在（林小班）
該当なし	該当なし	該当なし

【用語の解説】

《ア行》

いくせいふくそうりん
育成複層林：人為によって保育などの管理された森林のうち、樹齢や樹高の異なる樹木によって構成された森林。

いくせいりん
育成林：人為によって保育などの管理がされた森林。

《カ行》

かいてきかんきょうけいせいきのういじぞうしんしんりん
快適環境形成機能維持増進森林：快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のこと。

かいばつ
皆伐：一定範囲の樹木を一時に全部または大部分伐採する主伐の一種。

かんばつ
間伐：育成段階にある森林において樹木の混み具合に応じて育成する樹木の一部を伐採（間引き）し、残存木の成長を促進する作業。この作業により生産された丸太が間伐材。一般に除伐後から、主伐までの間に育成目的に応じて間断的に実施。

きたいせいりつほんすう
期待成立本数：ある林齢において生育し得る最大の立木本数として想定される本数。

《サ行》

さぎょうどう
作業道：林道を補完し、除間伐等の作業を行うために作設される簡易な構造の道。

さんちさいがいぼうし どじょうほぜんきのういじぞうしんしんりん
山地災害防止・土壌保全機能維持増進森林：土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のこと。

しじょう
枝条：樹木の支幹（大枝：力枝ともいう）と枝との総称。

したがり
下刈：植栽した苗木の生育を妨げる雑草や灌木を刈り払う作業。一般に植栽後の数年間、毎年、春から夏の実施。

しゅばつ
主伐：次の世代の森林の造成を伴う森林の一部または全部の伐採。

じよばつ
除伐：育成の対象となる樹木の生育を妨げる他の樹木を刈り払う作業。一般に、下刈を終了

してから、植栽木の枝葉が茂り、互いに接し合う状態になるまでの間に数回実施。

じんこうぞうりん しょくりん
人工造林（植林）：苗木の植栽、種子のまき付け、さし木等の人為的な方法により森林を造成すること。

しんりんせいび
森林整備：森林施業とそのために必要な施設（林道等）の作設、維持を通じて森林を育成すること。

しんりんせぎょう
森林施業：目的とする森林を育成するために行う造林、保育、伐採等の一連の森林に対する人為的行為を実施すること。

すいげんかんようきのうい じぞうしんしんりん
水源涵養機能維持増進森林：水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のこと。

せぎょう しゅうやくか
施業の集約化：林業事業体などが隣接する複数の森林所有者から路網の作設や間伐等の施業を受託し、一括して行うこと。個々に行うよりも効率的に施業が行え、コストダウンを図ることが可能。

《夕行》

たくぼつ
択伐：森林内の樹木の一部を抜き伐りする主伐の一種。

ちょうぼつきせぎょう
長伐期施業：通常の主伐林齢（例えばスギの場合40年程度）のおおむね2倍に相当する林齢を超える林齢で主伐を行う森林施業。

《ハ行》

ぼつき
伐期：樹木を伐採する時期のこと。

ほあんりん
保安林：水源の涵養等特定の公共目的を達成するため、農林水産大臣または都道府県知事によって指定される森林。伐採や土地の形質の変更等が規制される。

ほいく
保育：植栽終了後、育成の対象となる樹木の生育を促すために行う下刈、除伐等の作業の総称。

ほけんきのうい じぞうしんしんりん
保健機能維持増進森林：保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のこと。

ぼう芽更新^{がこうしん}：伐根や接地した枝から出る新しい芽（ぼう芽）を成長させて森林を更新すること。広葉樹類は若い年齢では一般にぼう芽力が強い。

《マ行》

民有林^{みんゆうりん}：国有林以外をいい、個人、会社、社寺等が所有する私有林、都道府県、市町村、財産区等が所有する公有林に区分される。

《ラ行》

立木^{りゅうぼく}：土地に生育する個々の樹木。

立木度^{りゅうぼくど}：現在の立木本数を期待成立本数で割り、十分率で表した値。

林齢^{りんれい}：樹木の年齢。人工林では、苗木を植栽した年度を1年生とし、以後、2年生、3年生と数える。

路網^{ろもう}：森林内にある林道や作業道などの総称、またはそれらを適切に組み合わせたもの。